

現在、地域子育て支援コーディネーター（利用者支援事業）への多岐にわたる相談のうち、**約3割が一時預かりの相談となっている**

1、一時預かりのキャパ不足の解消にきちんと着手すべき

【保育所の一時的預かりはパート就労の方も、レスパイトの方も利用しにくい】

パート就労だと認可園や認証も入りにくい、保育所の一時的預かりも帯で利用したくても予約方法が、前月のその日に電話をする園、1日に電話する園等バラバラなので確保が非常に厳しい。

レスパイトの利用については、就労している方が前もって予約されている枠でいっぱいになっているため、空きを見つけることがさらに難しい。

【ほっとステイはキャパが増えていかない】

一時預かり事業への予算が少ないので手をあげてくれる事業者が少なく、地域が増えていかない。結果、入会金1万、1時間2,000円など単価の高いシッターサービスなどを利用せざるを得ない。

目標数値と確保数に一番乖離がある事業。着実な事業の推進への検討が必要なのではないか。

2、緊急一時保育の利用について

【緊急一時保育がほとんどといっていいほど利用できない】

切迫早産、出産時の入院の際に上の子を預けることができない。

しくみがわかりにくい。私立は別途各園に問い合わせなくてはならず、あきらめにつながっている。

3、ファミリーサポートセンターの稼働について

【運営側のスタッフ増員、援助会員増へのバックアップが必要】

登録・説明会を経ないと利用できない仕組みとなっているが、毎月5支所エリアプラス土曜日開催により、かなりの割合で利用会員の登録が進んでいるが、実際に援助会員のマッチングが難しい。

援助会員の数を増やすためのしくみへのバックアップが必要ではないか。

4、さんさんサポートの稼働について

【単価の見直し等による受け入れ枠の拡大】

利用率は低いのに、拠点での当事者の声をひろうと、実際はいくつか断られて来てくれるところを探していることが多い。事業者数は多いが、受け入れの枠がそもそもすくないのではないかと考える。単価等、受託側の受け入れのしやすさにつながる見直しが必要ではないか。

今回は量の確保につながる検討について述べたが、

13事業・区単費で行っている事業についての「質」や「事業連携」「ネットワーク」等の視点で、子ども・子育て会議で検討の時間をきちんと割くべきではないかと考える。

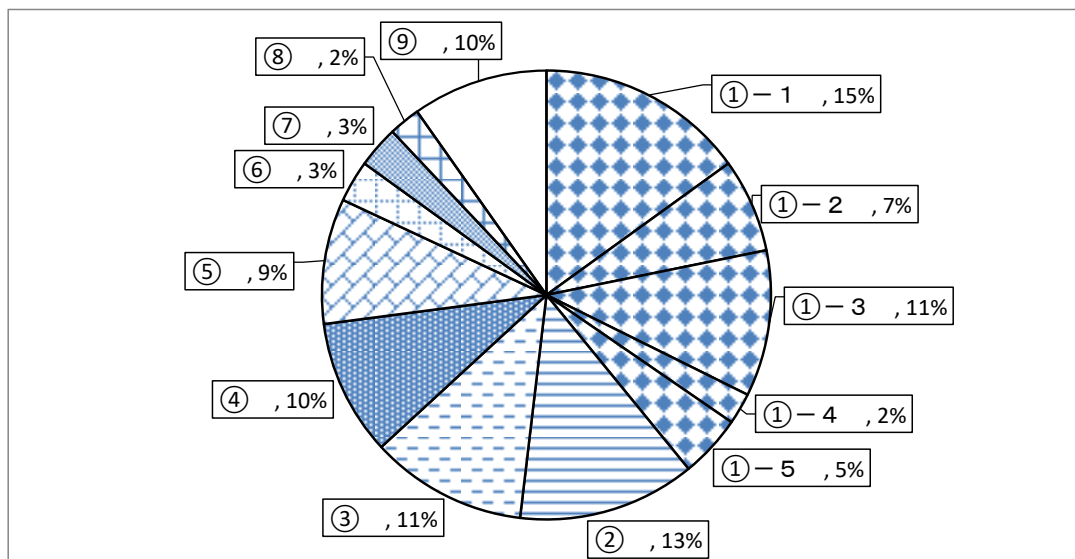
そのためのデータ収集、現状把握に関する調査等にも期待したい。

以上

■地域子育て支援コーディネーター相談について

2016年4月～9月 相談件数120件

分類	相談内容	件数	件数	関係機関（つなぎ先）など				
①-1	預け先や送迎(就労)	15%	20	一時預かり	ファミサポ	託児所 ベビーシッター	認可保育園	
①-2	預け先(通院などの理由)	7%	9	一時預かり	ほっとステイ	託児所 ベビーシッター		
①-3	預け先(その他の理由)	11%	14	一時預かり	ほっとステイ	託児所 ベビーシッター	認可保育園	
①-4	里帰りなど祖父母から(預け先など)	2%	3	ファミサポ	おでかけひろば	託児所 ベビーシッター		
①-5	第2子出産に関するもの (主に上の子の預け先など)	5%	6	一時預かり	ほっとステイ	母子保健 コーディネーター	託児所 ベビーシッター	ファミサポ
②	育児や子どもの発達(健康)	13%	17	健康づくり課		病院	助産師	
③	地域のコミュニティ・お出かけ場所について	11%	15	児童館	おでかけひろば	子育てサロン	認可保育園	子育て支援 団体
④	保育園・幼稚園	10%	13	保育課	子育て応援 相談員	児童館	子育てサロン	
⑤	精神・健康の問題(養育者)	9%	12	健康づくり課	生活支援課	病院	助産師	ファミサポ
⑥	双子出産や育児について	3%	4	児童館	健康づくり課	ファミサポ	託児所 ベビーシッター	おでかけ ひろば
⑦	転出入	3%	4	まちづくり 出張所	おでかけ ひろば	健康づくり課	ファミサポ	
⑧	妊娠時(子どもの障害や母の病気)	2%	3	健康づくり課	母子保健 コーディネーター	病院	助産師	
⑨	その他	10%	13	産後ケア センター	教育相談	世田谷ボラン ティア協会	ぶらっとホー	他区市町村窓 口



※ ① 預け先相談 合計40%